

2019年6月19日  
サイエンス・サポート函館  
代表：美馬 のゆり

はこだて国際科学祭 2019 開催  
11 回目のテーマは「食」が育む、函館の未来。>

函館の行政、高等教育機関等によって組織するサイエンス・サポート函館(代表 美馬のゆり 公立はこだて未来大学教授)は 2019 年 8 月 17 日からの 9 日間、五稜郭タワーアトリウムを中心とする函館地域複数の会場で、はこだて国際科学祭 2019 を開催いたします。また、会期に先駆け、7 月 20 日からプレイベントとして屋外での科学イベントや科学工作教室等を開催します。

はこだて国際科学祭は、科学を楽しむことを入り口に、科学と社会の関係について考えるきっかけをつくることを目的に、2009 年から毎年夏に開催してまいりました。11 回目となる今年は、「食」が育む、函館の未来。」をテーマに、企画展やステージイベント、科学屋台、ワークショップ、サイエンスカフェ等の多彩なプログラムをお届けします。対象は子どもから大人まで、プログラム毎に設定し、エンターテインメント性の高い催しから、科学が関わる社会の問題について考え対話する催しまで、硬軟織り混ぜた構成です。プログラム数は現在確定しているものが 32 で、今後さらに追加される可能性があります。

## 1. 開催概要

- (1) 会期：2019 年 8 月 17 日(土)～8 月 25 日(日)  
プレイベント期間:7 月 20 日(土)～8 月 11 日(日)
- (2) テーマ：「食」が育む、函館の未来。
- (3) 会場：五稜郭タワー、函館市中央図書館、函館コミュニティプラザ G スクエア、はこだてみらい館、函館市国際水産・海洋総合研究センターほか 函館市、北斗市、七飯町の 15 会場
- (4) プログラム数：32 ※実施が確定しているもののみ。過去の実績 2018 年 33、2017 年 39
- (5) 想定参加者数：のべ 13,000 人 ※プレイベント含む
- (6) 主催：サイエンス・サポート函館 ※参加機関は資料末に別途記載

## 2. テーマ「食」が育む、函館の未来。」からの展開

はこだて国際科学祭では 3 年間でめぐる年替わりのテーマとして<環境><食><健康>の話題を扱ってきました。今年は<食>の年にあたります。今回は「食」が育む、函館の未来。」をテーマに、私たちの暮らしをもとに、一次産業や飲食、観光をはじめとする函館の営みの未来を、そして先端科学技術を紹介しつつ、世界の未来まで、「食」を切り口に考えます。

### ●企画展—サイエンスダイアログ—科学夜話プレミアム 核となるプログラムを展開

企画展「食」が育む、函館の未来。」は、3 年に一度めぐってくる開催テーマである<食>について掘り下げるパネル展です。科学祭のプログラムに出展している人たちの活動や、食にまつわる話題を取材し、ストーリーを紡ぎ、グラフィカルなパネルを用いて表現します。

オープニングの対談型講演会、サイエンスダイアログでは、北海道の食を豊かにするために、生

産者との絆を深め、安心安全でおいしい食を提供しているコープさっぽろの大見英明さんと、山羊や羊を地元の作物で育て、この土地の乳酸菌でチーズ作りをしている山田農場の山田あゆみさんを話題提供者にお迎えします。お二人のお話から、函館の食の可能性について考えます。

科学夜話プレミアムでは、食の循環に光を当てます。足下に張り巡らされたインフラ「下水道」と農業・水産業との関係、そしてそれを支える ICT 技術。最新の下水道の話題を研究者、技術者と語り、気づきを共有するトークセッションです。

### ●現在進行形の科学と社会の関係について考えるきっかけをつくる科学夜話を複数実施

食を取り巻く環境は、時代の変化とともに大きな転換期を迎えています。科学夜話「培養肉カフェ」では、NHK「クローズアップ現代」で取り上げられた、自宅で動物の細胞を培養し、人工の食用肉をつくる取り組みを行っているサークルのメンバーのひとりで、七飯町出身の田中雄喜さんを話題提供者にお迎えし、「ナマものづくり」の現状と今後の方向について考えます。

科学夜話「出張弘大食料研サイエンスカフェ in 函館」では、弘前大学で開発され注目を集めている、「エピゲノム育種」とよばれる次世代型の育種技術によるリンゴの新品種開発について取り上げ、育種の最前線と技術導入によって今後食がどのように変わっていくのか、思いをめぐらす場を提供します。

科学夜話「マリン IT カフェ」では、情報化による水産業支援の研究開発を行っている公立はこだて未来大学教授の和田雅昭さんをお迎えし、水産業の未来について考えます。「マリン IT」は昨夏、テレビ北海道「ガイアの夜明け」でも取り上げられました。研究者は、水産資源と海洋環境を可視化し、一方漁業者は、可視化された情報をもとに持続可能な水産業に取り組んでいます。

### ●北海道初の科学イベントを複数実施

今回の科学屋台およびサイエンスショーでは、つくばから高エネルギー加速器研究機構(KEK)、東京から東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST が北海道内の科学イベントとして初めてはこだて国際科学祭に参加します。高エネルギー加速器研究機構は、毎週金曜日につくば市内でサイエンスカフェを開催しているほか、全国各地で KEK キャラバン(出前授業)を展開しています。また、東京大学サイエンスコミュニケーションサークル CAST は、東京大学の現役学生からなる任意団体で、学園祭での実験体験型科学イベントの開催やサイエンスショーの上演、出張理科教室や科学読み物の発信などをはじめ、関東を中心に精力的に活動しています。

## 3. プログラムの構成

### ●プレイベント期間 (7/20~8/11) | 夏休み向けプログラム主体

連携しているマリンフェスティバルを皮切りに、小学生を主な対象とした夏休み向けの催しを多数開催します(夏休みの自由研究講座等)。7月21日(日)には千代台公園陸上競技場で恒例の青少年のための科学の祭典函館大会等を実施します。また、大人向けのとっておきの催しも実施します。科学夜話「科学夜話「STEM(ステム)教育って何?~世界の理数教育の潮流~」、道南農試公開デー)などがあります。

## **今年が目玉企画！**

### **●南極とライブ中継(8/17・18) | サイエンスコネクト&ライブ～南極の、知りたいことは？～**

今年のサイエンスライブは、オンラインウェブ会議システム Zoom を使った、南極昭和基地との実況生中継と音楽演奏との融合です。題して「サイエンスコネクト&ライブ」。今回は特に、今年の科学祭のテーマである「食」に関連して、「南極における食」さらに「南極の、知りたいこと」に焦点をあてます。1 日目は南極から送られてきた動画とライブ演奏を聴き、2 日目は南極昭和基地とオンラインウェブ会議システムでつないでインタラクティブな対話を愉しむことができます。

### **●会期中の週末(8/17・18、8/24・25) | 賑わいある催し**

4 日間を通して五稜郭タワーでステージイベント、科学屋台等を開催します。プログラミングやいま話題の VR(バーチャルリアリティ)の世界が体験できる科学屋台「未来教室」や、学生が「楽しさ」「面白さ」を見つめなおして制作した新体験コンテンツが楽しめる科学屋台「未来大発「新体験！」」など、新規出展からおなじみの顔ぶれまで、多彩な催しを回遊することができます。

※プログラムの詳細は別添のスケジュール表および詳細紹介をご覧ください。

### **●UDトークによる音声認識技術を活用したリアルタイム字幕、多言語にも対応**

今回開催する複数のトーク系プログラムにおいて、コミュニケーション支援アプリ「UD トーク」による音声認識技術を活用したリアルタイム字幕を提供し、トークイベントを「見える化」します。音声は文字情報として提供されることにより、耳の聞こえにくい方にも参加しやすい科学祭に挑戦します。また、UDトークの翻訳機能により、参加者が手元のスマホなどで読める多言語字幕にも対応します。

## **4. 今後の情報発信**

はこだて国際科学祭 2019 のプログラム内容や要申込プログラムの募集案内は、公式ウェブサイト (<http://www.sciencefestival.jp/>) および公式ガイドで紹介します。公式ガイドは、函館市青年センター他、市内公共施設で7月中旬より配布する予定です。

### **※主催：サイエンス・サポート函館の参加機関（9 機関）**

函館市、函館市教育委員会、公立はこだて未来大学、函館工業高等専門学校、北海道教育大学函館校、北海道大学大学院水産科学研究所・大学院水産科学院・水産学部、キャンパス・コンソーシアム函館、一般財団法人 函館国際水産・海洋都市推進機構、公益財団法人 南北海道学術振興財団

### **<本件に関するお問い合わせ先>**

立花 浩司 (たちばな こうじ)

公立はこだて未来大学社会連携センター/サイエンス・サポート函館コーディネーター  
函館市亀田中野町 116 番地 2 公立はこだて未来大学内サイエンス・サポート函館事務局  
電話：0138-34-6527 FAX：0138-34-6564 e-mail：info@sciencefestival.jp